令和6年度 第1回春日井市障がい者施策推進協議会 議事録

- 1 開催日時 令和6年9月2日(月) 午後1時30分から
- 2 開催場所 春日井市役所10階 1004・1005会議室
- 3 出席者 委員
会長 中尾 友紀(日本女子大学)
副会長 田代 波広(障がい者生活支援センターJHNまある)
大島 理恵子(春日井市肢体不自由児・者父母の会)
服部 浩子(春日井市手をつなぐ育成会)
山本 松壽(春日井地域精神障害者家族会むつみ会)
加藤 鉦明(春日井市社会福祉協議会)
松本 繁(愛知県医療療育総合センター)
松本 華子(春日井保健所)
原 雅恵(春日井公共職業安定所)
後藤 義和(春日台特別支援学校)
芝垣 正光(公募委員)
永田 菜穂美(公募委員)
事務局 健康福祉部 部長 神戸 洋史
障がい福祉課 課長 清水 栄司
同課 課長補佐 林 政男
同課 課長補佐 相澤 八重
同課 障がい福祉担当主査 杉本 裕昭
同課 認定給付担当主査 金野 貴成
同課 主任 内田 慶太
欠席者 市川 潔(春日井市介護保険居宅・施設事業者連絡会)
小林 宏明(公募委員)
傍聴者 9名

4 議題

- (1) 春日井市障がい者総合福祉計画の進捗状況について
- (2) 地域自立支援協議会の報告について

5 【配付資料】

- 資料1 春日井市障がい者施策推進協議会委員名簿
- 資料2 春日井市障がい者総合福祉計画の具体的施策の推進状況
- 資料3 令和6年度第1回春日井市地域自立支援協議会資料
- 資料4 令和6年度第1回春日井市障がい者施策推進協議会 御意見・御質問の集計結果について(当日配布)

6 事務局あいさつ

- 【事務局】 委嘱状の交付
健康福祉部長あいさつ
委員の自己紹介
事務局の自己紹介
当協議会の公開及び要点筆記による議事録作成についての確認
資料の確認
会長あいさつ

<議題（1）春日井市障がい者総合福祉計画の進捗状況について>

【事務局 杉本】

資料2、4に基づいて説明を行った。

【中尾会長】

資料4の2番目について、相談員の確保は、難しい状況にあるかと思います。単に助成金があれば、研修がうまくいって、定着していくわけでもなく、別のところのサポートがかなり必要かと思います。1人職場も多いですので、それで新人さんがうまくいわずに潰れていくということも考えられます。それをいかにサポートするかということは、かなり連携が必要かと思います。初任者研修費の助成だけで解決する問題ではないかと思いますので、今後の動向を見守りたいと思います。何か手を打っていかないと、今後厳しいところがあるかなと思いますので、皆様の知恵も借りながら、進めていければと思います。

【大島委員】

相談員さんはなかなか増えないなと思っています。私の相談員さんも辞めることになり、急遽、ほかの相談員さんをお願いしたところですが、医療的ケアのある方々は、いつ何があるか分からないので、相談員さんがしっかりついてほしいという気持ちがあります。

相談員さんになるには、これまでの経験も必要でしょうから、そう簡単には増えないと思いますが、ヘルパーさんはじめ、大分高齢になってきていると感じていまして、50代のスタッフさんが多いのではないかと思います。早いうちに手を打っていかないと、10年、20年後にはもっともっと人手が足りなくなると思います。一步踏み込んで、具体的な策を出してほしいと思います。

【加藤委員】

資料4の3番目について、愛知県の強度行動障がい児等の実態調査の内容を確認することができれば、春日井市として必要としている項目がそこに網羅されているのかチェックしたり、追加の調査事項を提案できるのかなと思います。機会があれば、ぜひ調査の中身を確認して、春日井市が必要としているような項目が考慮されているのかを確認できるとよいと思います。

【中尾会長】

今後県からの情報がありましたら、協議会にも共有いただきますようお願いいたします。

【芝垣委員】

資料4の4番目について、賃貸住宅を利用した際の家賃助成について実績が少ないので、もっと宣伝していくことや、希望がありそうな人に案内していくことも考えられたらよいかと思います。

【中尾会長】

周知のほか、一人暮らしの体験のための制度ということで、希望がある人を引き出して

いくような取り組みも必要なのかもしれないと思います。

【山本委員】

資料4の5番目について、地域移行支援の実績が2名ということですが、年間2名ということでもよろしいでしょうか。確認をお願いします。

【山本委員】

資料4の5番目について、令和6年度第1回の地域自立支援協議会で、精神障がいの方で、重層的支援につなげられた困難事例の発表がありました。傍聴させていただき、相談員さんが非常に難しい事例を大変苦勞されて入院治療につなげられており、難しい問題を我が身の問題のように取り組んでいただいて本当に感謝しております。それとともに、相談員さんの苦勞が何とか減らせないかなというふうに感じました。福祉人材の点からも、少しでもスムーズに対処できるように、保健医療福祉関係者による地域包括ケアシステムについて協議の場がありますので、そこで重層的支援体制の関係も協議いただいて、効果的な仕組みづくりをお願いしたいと思います。

それから、必要な情報や支援が届いてない人にアウトリーチによる継続的な支援の取り組みについても、大変大事な問題だと思います。むつみ会でも、ふらっと活動を含めて同じ目線しております。ふらっと活動では、毎月誰でも参加できて悩みを話せる集まりを、家族対象に続けておりますが、むつみ会でも機会あるごとにふらっと会合への参加を呼びかけております。

【加藤委員】

資料4の7番目について、孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの中身や、どのように運営されているのかがよくわかりませんでした。運営は、参加団体が自主的に行っていくのでしょうか。市が主導するのでしょうか。

【事務局 杉本】

確認の上、改めて回答します。

【中尾会長】

資料4の10番目について、高齢者等サロン事業について、高齢になってから障がいを持たれる方もいらっしゃるし、もともと障がいを持っていた方が高齢になってということもあります。もともと障がいを持っていた方が、高齢者そのものを対象にしたところに行くのも難しさがあるかなと思いますし、一方で障がい者の方が集まっているところに、高齢になってもずっと通い続けるのことの難しさもあると思います。両者の連携が必要な状態、そういう時代に突入してきており、重要なところかと思えます。

【中尾会長】

資料4の11番目について、避難所のマンホールトイレについて、ここの避難所は車椅子対応のものです、ということは皆さんに分かるように周知されているのでしょうか。

【事務局 相澤】

春日井市のホームページには、避難所の備品等が掲載されていますが、マンホールトイレが車椅子対応型かどうかまでは公開していない状況です。担当課からは、公共下水道の地域にある福祉避難所については、車椅子対応型のマンホールトイレを設置する予定と聞いております。

【芝垣委員】

資料4の12番目について、「障がい」の表記は、法律等では漢字の「障害」表記なのはわかりますが、要領でも漢字を使わないといけないのでしょうか。春日井市が独自に要領

を定めるのであれば、「障がい」表記に、改定する機会があるときに変えてはどうかと思います。

【中尾会長】

資料4の13番目について、障がい者施策推進協議会は、計画を策定し、作成した計画がうまく動いているか進捗を確認していく場で、自立支援協議会とは少し役割が違っていません。

委員の皆様方には、今後も計画の進捗を確認し、より進めていくということと一緒に取り組んでいきたいと思っています。

【大島委員】

資料4の15番目について、元気が出る研修会は、毎月開催しているのでしょうか。

【事務局 金野】

年に1回開催しています。

【山本委員】

資料4の17番目について、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム（にも包括）の基盤整備は、春日井市の基本理念の実現に欠かせない重要なものです。地域共生社会の実現には多くの問題点と課題があります。例えば春日井市では、地域移行支援や地域定着支援の実績が少ないです。また、令和4年度のアンケートでは実に94%の方が、障がい福祉サービスの支援区分の認定を受けておらず、家族が当事者を抱えている状況にあると思います。にも包括の協議の場で、精神障がいに関するその問題点、課題の深掘り、基盤整備の取り組みをお願いします。

例えば他市の事例ですが、保健医療福祉関係者が、情報共有や連携を行う協議の場を構築し、重層的な支援による支援体制の構築の推進、個別事例の検討、各計画の進捗状況の確認等を行っているほか、ピアサポーターの活躍の場の拡大とピアサポーターの養成、研修についてもPDCAのサイクルを回して取り組んでおられます。

現状を反省して目標を作成し実行、その結果が良かったか悪かったかを反省して対策するという、PDCAの管理のサイクルを回して取り組んでいただきたいと思っています。

【中尾会長】

精神障がいの方も含めた障がい者の支援ということで、計画にも位置づけられておりますので、具体的な取り組みの推進をよろしく願いいたします。

【田代委員】

資料4の18番目について、幅広い方々に、総合福祉計画ができて、中身はこういうふうになっていると、紹介する機会が多くなればいいと思っています。目標の数値や重点目標など、いろいろ載っていますので、当事者御家族はもちろんのこと、我々事業者も、それぞれの事業者の目標や、取り組んでいくべき点を、振り返るような周知の方法がないかと思っています。事業者に対して、協力や連携を投げかける必要もあるのかなと感じています。

【中尾会長】

新たに加わった内容もあり、計画を読まないことにはわからない部分もあります。周知していくとともに、特に田代委員からあった事業者の方々には、受け身ではなく自らも率先して実施し、力になっていただきたいと思っていますので、周知していくことは重要かと思っています。

【山本委員】

実績報告について、実施した結果こういう問題点があるということが分かりましたら、

会議の場を出していただければ、次につながっていくのではないかと思います。目標に対して実績はどうであったかチェックして、そのやり方がよかったか悪かったか、その反省を次につなげることが大事だと思います。

<議題（２）地域自立支援協議会の報告について>

【事務局 金野】

資料3に基づき説明を行った。

【田代委員】

今日、中尾会長や山本委員からも、施策推進協議会と自立支援協議会は両輪というお話がありました。例えば、今日の進捗管理や御質問・御回答の中で、ぜひ地域自立支援協議会で検討してほしいということがあれば、教えていただきたいと思います。

【大島委員】

地域自立支援協議会の部会や連絡会について、協議会よりも頻度が多く2か月に1回程度行われているので、交通費等の支給があるとありがたいと思います。部会等で様々な問題が話し合われていますが、市だけでは解決できない問題にぶち当たってしまうことも多く、なかなかスピーディーに解決していかないなと感じています。研修会を実施するにしても、講師を呼ぶのに予算がなくて呼べず、研修会を実施できないでは残念です。研修会も、人材の確保につながるような研修を、年に2回、3回実施していけたらと思いますので、自立支援協議会でも話し合っていたらと思います。

【中尾会長】

実際に作った計画がどう動いていくのか、3年間の計画のうちの1年目ということで、まだスタートの時点ですので、すぐにゴールするわけではないですが、きちんとスタートが切れているかどうか、やるべきことがきちんと進んでいるかどうかということを、確認できればと思います。皆様方も、そうしたことを意識して、また様々な御意見をいただければと思います。

以上

上記のとおり、令和6年度第1回春日井市障がい者施策推進協議会の議事の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、会長及び副会長が署名する。

令和6年9月2日

会 長 中尾 友紀
副会長 田代 波広